

令和4年度 第1回生駒市行政改革推進委員会分科会① 会議録

開催日時 令和4年10月11日(火) 午後2時～午後4時30分

開催場所 生駒市役所 403・404会議室

出席者

(委員) 森会長、稲山委員、森岡委員、新子委員

(事務局) 知浦行政経営課長、岡田行政経営課課長補佐、島田行政経営課同係主任

(傍聴者) なし

1 開会

(事務局) 本日の案件は、「前期行動計画の取組状況の確認について」である。

2 案件

「前期行動計画の取組状況の確認について」

(会長) 担当課が作成した取組状況評価シートをもとに、各取組内容についての総合評価を決定していく。

No.2 納期内納付の推進と徴収率の向上

(委員) 督促状発送率の目標は何を測るために設定したのかが分からなくなったため、算定式を質問した。6%といっても生駒市と他の自治体では重みが違うので、6%という目標設定が正しいのか疑問に思った。奈良県市町村振興課の資料をみると、生駒市の徴収率の順位は下がっており、令和2年度は市の中で下から4番目である。この数値目標で成果を正しく測ることができるのか疑問である。また、納付方法についても、最も良いのは、自動的に収納してもらえ口座振替である。口座振替をもっと増やす努力をしていくべきではないか。

(事務局) 督促状発送率は督促状発送件数/調定件数なので、発送率が減るということは未納が減るということである。目標値は、県や他市の状況ではなく、生駒市の前年度の数字等から設定している。

(委員) もっと頑張る余地があるように感じる。別紙5の督促状発送件数をみると22,303件発送していることになる。この指標では、収税課の努力が見えないので、指標は督促状発送率でも良いと思うが、分母と分子の数字をどこかに書いておくべきである。何百世帯しかない自治体とでは母数が違う。

(会長) 指標名に算式を入れておくのはどうか。数値目標で評価すると、督促状発送率、徴収率ともに目標を達成している。

(委員) 令和3年度の取組実績に記載している内容は例年実施している取組である。なぜ徴収率が上がったのかという理由が見えないし、次の年度はどうするのかも分からず、評価の仕方が分かりにくい。結果論だけでなく、何によってその結果が得られたのか。

(会長) それについては差分の理由欄に記載している。

- (委員) 滞納整理班は今年度から結成されたのか。
- (事務局) いいえ、数年前からある。収税課の取組としては、納期を守ってもらうために、納付カレンダーを作成し配布するとともに、24 時間どこからでも収められる環境を整備している。また、口座振替していない層は生活に困窮している世帯が多いが、そういった方にはお金が入ったら納付するという意識があるので、納付できる状況になったときに、いつでも納付できる環境を整えるため、スマホやコンビニ納付といった環境を整えた。それでも払えない人には督促状の発送や滞納整理班による対応など、段階に応じた対応をしている。
- (会長) 指標は両方とも達成しているので、A か B になる。担当課が A にしている理由は、コロナで経済情勢が厳しくなっていて徴収率が下がると予想されたが、徴収率が上がったということ。それについてどう評価するのか。経済状況は関係ないと判断すれば B だろうと思う。経済状況を加味してどう判断するか。
- (委員) 指標を何に設定するのか。この指標だけで良いのか、全体を考えたときに資料が足りない。指標だけで評価しろと言われるが、評価する側にすれば、単純に指標だけで評価して良いのか疑問に感じてしまう。ここに書かれていない部分を考慮しなくて良いのか。数字に表れない部分をどう評価するのか。
- (会長) 言っている意味は分かる。しかし、指標については、計画策定時に議論されているので、そこに制約を受けざるを得ない。そのことを一般の市民にどこだけ理解してもらえるかは分からない部分はあるが、評価の流れとしてはこういう指標で評価すると決まったので、その指標で評価するという決まりで進めているので、指標そのものに対する議論はこの評価をしている中では外さざるを得ない。
- (委員) 担当課評価をもとに評価するのであれば委員会はいらないのではないのか。
- (会長) 担当課とは違う角度で評価すべきと言っている。
- (委員) 違う視点でみたら担当課は A と評価しているが、総合的にみたら B 評価になるということはあるのか。
- (会長) あり得るが、見る指標はこの 2 つの指標だけにしてほしい。
- (委員) 指標と取組内容が繋がっていない取組がたくさんある。そのような取組をどうやって指標だけで評価するのか。
- (会長) 担当課だけで評価すると自分本位な評価になってしまうので、本当に成果が出ているのかを外部の目で評価するために本委員会がある。
- (委員) この指標で了承したと言われればそうだが、評価する段になって初めて指標がおかしいと感じる部分がある。もっと具体的な数字があがっていないと分からない。
- (委員) 一般市民目線で督促状発送率と言われても分からない。そうすると市民感覚で評価するしかない。取組内容を評価するのではなく、指標だけで評価するのであれば評価したくない。
- (会長) 多義的で抽象的なものが取組内容には記載されている。それを評価するために、指標を決めようということで指標を決定した。次の段階として、設定した指標に基づいて担当課が評価結果を出してきた。担当課の評価も確実ではないので、外の目線で、この評価が妥当なのかを検討するのがこの委員会ではないか。

- (委員) 取組実績と指標をあわせて評価するということか。
- (事務局) 滞納税の縮減に努め、徴収率の向上を目指すことがこの取組である。このシートに書かれている内容をもとに評価してもらいたい。
- (委員) それであれば、滞納整理班は令和3年度からではないということ。また、納期の周知に努めたということは当たり前のことである。もっと具体的に取り組んだ内容やなぜ徴収率が上がったのかが書かれていないと分からない。電話催告はどれぐらい件数を増やしたのか、滞納整理班がどんなことをしたのかなど、もっと令和3年度に特化した内容を具体的に記載してほしい。自分達がしたことを具体的にアピールすべきである。
- (委員) 市民が見たときにどういった取組をしたのか、具体的な中身が分からないと評価しづらい。
- (会長) 令和3年度にどのような努力をしたのか、それによって確かに実績が出たのだなということが分かるように評価の根拠を記載してほしいということだと思う。全体に関わる話なので、今後各担当課に依頼するときに当該年度に何をしたのか、それによって実績につながったということが分かるように記載を依頼してほしい。
- (委員) せっかく取り組んだのであれば、きちんと記載すべきである。A評価にするのであればもっと具体的に取り組んだ内容を記載すべきである。
- (会長) 市民感覚としてどうか。
- (委員) 徴収率を1%上げるのは、どれぐらい大変なことなのか。また、それが市民努力によるものなのか、収税課の努力によるものなのかが分からない。
- (委員) 生駒市の規模で、徴収率を1%上げるのはかなり大変なことだと思う。
- (会長) 徴収率が1%上がり96.98%となったという点を評価しA評価とする。ただし、このような努力をして徴収しているということが伝わるような表現にすべきである。指標を達成すれば良いという話ではない。

### No.3 企業誘致による地域経済の活性化

- (会長) 企業への支援説明や展示会でのPR等の努力をした結果、2事業者に企業立地の認定ができたということである。
- (委員) 2事業者は必ず立地してくれるのか。
- (事務局) 事業計画を立て、銀行と資金繰り等を決めただけで、認定を受けるので、よっぽどことがない限り撤退はないだろう。
- (委員) このエリアには、もうあまり土地がないと聞いた。
- (事務局) 奈良県から情報を収集しながら事業を進めている。
- (会長) 目標が2件で実績が2件なのでB評価で良いか。
- (事務局) 北田原地区については、今後規制緩和をしていかなければ用地を確保できないので、都市計画課で規制緩和の働きかけはしている。それがつながって2件が出てきたのだと思う。また、高さ制限があるので、建築審査会や県等と協力しながら進めている。
- (委員) 高さ制限は随時審査に移行していると聞いた。それにより、もっと成果がでてくる可能性は高いと思う。

(会 長) B 評価で良いか。

(各委員) 了承

#### No.4 空き家の流通促進と住宅のリノベーション

(委 員) 空き家の流通促進が進みつつあるように感じる。今後は、団塊世代の空き家をどう若い世代に住み替えしてもらうかが重要である。なぜ空き家の流通が進んでいるのかが分かれば、もっと住み替えが進んでくるのではないか。

(会 長) 実績値の 12 世帯と売買件数 20 件との違いは何か。

(事務局) 12 世帯というのは、市外からの転入数である。

(委 員) 民間の不動産業者が取り組んだ実績も入れないと本当の成果は分からないのではないか。

(会 長) このプラットフォームでは流通しにくい物件を取り扱っている。そういった物件を販売しているにも関わらず 20 件販売できたことは評価が高いので、A で良いか。

(各委員) 了承

#### No.5 プロ農家の確保育成と既存農業者の収入増につながる取組の推進

(委 員) 移動販売では、農家組合の人しか販売できない。畑を借りて趣味で作っている人も販売できれば良いのだが。新規就農者の取組が地域振興につながると思うので、指標 1 に対する評価が大きいと思う。

(委 員) 専業農家だけでなく、農業に関わる人が増えることは重要だと思う。生駒市にそれだけ大きな農地はないので、収入増を図ることは難しい。

(事務局) 農地面積は少ないので、その分、いちごなど付加価値の高い農作物を作っている。農業をしたいという方は生駒よりもっと田舎を求める人が多いので、大阪に近いという点などを PR しながら取り組んでいる。

(委 員) 大量に生産するという手法は生駒市には向かないように思う。少量多品種でネット販売やレストランに納品するなどのモデルを作ってはどうか。

(委 員) 認定新規就農者が 9 人というのは目標には達していないが、難しい取組であることを考慮するとよく頑張っている。

(会 長) B で良いか。

(各委員) 了承

#### No.6 国内外からの観光客の呼び込み

(委 員) 宿泊施設数だけでは、観光客が増えたのかどうか分からない。

(委 員) 観光関連事業者支援を適切に行い、市内消費の促進を行うことができたとあるが、具体的な取組が分からない。倒産がなかったのも生駒市の努力なのか、事業者の努力なのかも分からない。

(委 員) 観光パンフレットを他府県へ視察に行った時にもらうが、生駒市のものは見劣りする。観光の売りを絞れていないような気がする。また、市がどんなバックアップをしているのかが見えてこない。

- (事務局) 計画策定時は、スポットはたくさんあるが、宿泊施設が少ないという課題があった。その後、生駒市は通過点になってしまっており、まずは滞在してもらえないと宿泊してもらえないということが明らかになったため、滞在してもらうためのツアーをつくった。それと併せて、宿泊施設に対してサポートをしていかないといけないので、宿泊施設ごとに専門家を呼んで個々にサポートをした。観光客に対する取組としては、生駒市周辺には来ている人を生駒市内へ呼び込むため、令和2年度に体験ツアーをつくった。モニターの意見を聞いてブラッシュアップしたうえで、昨年度販売した。100人ほどのオンライン予約があったと聞いている。一連の課題分析をしたうえで、課題にあわせた取組をしているので、担当課は一定の成果が得られたと評価している。コロナの影響により、倒産している宿泊施設が多い中、倒産した施設がなかったことも評価の根拠としている。
- (委員) 生駒で観光してもらわなくても、生駒に宿泊し、奈良や大阪に行ってもらってはどうか。生駒を起点とすることで、もっといろんなプログラムが組めるということをアピールしてはどうか。また、里帰りしてきた子どもたちが生駒市内で泊まる場所がないので、奈良市に泊まっているという話を聞く。
- (会長) オンライン販売しているのであればその実績を書いてほしい。次年度への期待を込めてC評価で良いのではないかな。
- (各委員) 了承

### 3 その他

第2回分科会①を令和4年11月14日(月)午前10時から開催する。

閉 会